

陸前高田市文化財調査報告書第17集

史跡中沢浜貝塚 '93

1994年3月

陸前高田市教育委員会

陸前高田市文化財調査報告書第17集

史跡中沢浜貝塚 '93

序

陸前高田市は、陸中海岸国立公園の南部に位置する温暖の地でありま
す。リアス式海岸特有の入り組んだ海岸線の奥に白砂青松の高田松原を
抱き、海と山そして川といった豊かな自然が私たちに大いなる恩恵を与
えてくれます。この豊かな自然環境の中で私たちの先人は生活を営み、
文化をはぐくんでまいりました。市内に残る数多くの遺跡は、その証し
の一つとして守られ、受け継がれてきたのです。

私たちの文化の向上と進歩のために、広い関心と正しい理解を得なが
ら先人の遺産を保護し活用することは、私たちに課せられた責務である
と考えます。

本報告書は、史跡中沢浜貝塚内での住宅建て替え工事に伴う緊急発掘
調査と遺跡範囲確認のための発掘調査の結果をまとめたものであります。

調査の結果、貝層は検出されなかったものの、過去に実施された発掘
調査と同様、縄文時代前期中葉から晩期末にかけてと弥生時代そして平
安時代の遺物が出土しました。

本報告書が広く活用され、文化財保護のための一助となれば幸いに存
じます。

最後に、今回の発掘調査に当たりご協力、ご指導を下された地権者及
び地元関係者の方々に対し、心より感謝を申し上げます。

平成6年3月

陸前高田市教育委員会
教育長 大 澤 太 郎

例 言

- 1 本報告書は平成5年度に国庫及び県費補助金を受けて、岩手県陸前高田市広田町字中沢に所在する史跡中沢浜貝塚の発掘調査成果をまとめたものである。
- 2 今回の発掘調査は、史跡中沢浜貝塚の現状変更（住宅改築）に伴って実施されたもので、文化庁からの通知を受けた申請者からの依頼により、岩手県教育委員会の調整を経て、陸前高田市教育委員会が主体となって事前の遺構確認を目的として実施した。
これとあわせて、遺跡範囲確認のための発掘調査を実施した。
- 3 調査面積は、180.31㎡である。屋外調査は、平成5年6月11日から平成5年12月17日までの期間で実施した。
- 4 調査体制は、次のとおりである。
団 長 陸前高田市教育委員会教育長 大澤太郎
総 括 陸前高田市教育委員会事務局社会教育課長 及川 清
事務局 陸前高田市教育委員会事務局社会教育課長補佐 村上安見
調査員 陸前高田市教育委員会事務局社会教育課主事 吉田 功
調査補助員 青山道子、及川トシ子、佐藤多恵子、佐藤とも子、村上典子、吉田チヨ子
- 5 本発掘調査に際しては、次の方々のご指導、ご協力をいただいた。（順不同）
岩手県立広田水産高等学校教諭 遠藤勝博氏
岩手県教育委員会事務局文化課主任文化財主査 小田野哲憲氏
岩手県教育委員会事務局文化課文化財主査 熊谷常正氏
陸前高田市立博物館主任学芸員 佐藤正彦氏
大船渡市立博物館学芸員 白土 豊氏
- 6 土色は、『新版標準土色帖』第4版（小山正忠、竹原秀雄 1973年）によった。
- 7 本報告書の執筆は、吉田が担当した。
- 8 出土遺物と調査記録は、陸前高田市立博物館に保管している。
- 9 屋外調査においては、臼井繁治氏、藤井定雄氏、藤井孝行氏、藤井喜八郎氏、吉田長悦氏、吉田利一氏 をはじめとする地元広田町字中沢地区の方々のご協力をいただいた。

目 次

本 文

I はじめに…………… 1	IV 発掘調査の成果…………… 7
II 遺跡の位置と環境…………… 1	V まとめ…………… 8
III 基本順序…………… 4	

挿 図

第 1図 広田半島における貝塚・遺跡の分 及び中沢浜貝塚周辺の遺跡…………… 2	第 6図 II区B区平面図及び土層セクシ ョン図…………… 6
第 2図 大設定図…………… 3	第 7図 I区出土遺物(土器片)…………… 9
第 3図 I区平面図…………… 5	第 8図 II区出土遺物(土器片・1)…………… 11
第 4図 I区A1区平面図及び土層セクシ ョン図…………… 5	第 9図 II区出土遺物(土器片・2)…………… 12
第 5図 II区A区平面図及び土層セクシ ョン図…………… 6	第 10図 出土遺物(石器)…………… 15
	第 11図 出土遺物(石器及び貝製品)…………… 16

表

第 1表 I区出土土器・土製品一覧表…………… 10	第 3-1表 I区出土石器(石鏃)…………… 14
第 2-1表 II区出土土器・土製品一覧表(そ の1)…………… 10	第 3-2表 I区出土石器(その他)…………… 14
第 2-2表 II区出土土器・土製品一覧表(そ の2)…………… 12	第 4-1表 II区出土石器(石鏃)…………… 14
	第 4-2表 II区出土石器(その他)…………… 14
	第 5表 I区出土貝製品…………… 14

写真図版

図版 1 I区調査前, I区	図版 8 I区埋め戻し作業風景, I区埋め 戻し後
図版 2 I区A1区, I区A1区北東壁断面	図版 9 II区調査前, II区A区調査風景
図版 3 I区A2区, I区A2区北東壁断面	図版 10 II区A区, II区調査風景
図版 4 I区A3区, I区調査風景	図版 11 II区B区調査風景
図版 5 I区B1区, I区B1区北東壁断面	図版 12 II区B区, II区埋め戻し後
図版 6 I区B2区, I区B2区北隅断面	図版 13 出土遺物
図版 7 I区B3区, I区B3区北隅断面	図版 14 出土遺物



I はじめに

本調査は史跡中沢浜貝塚に係る現状変更（住宅改築）許可申請に伴う発掘調査であり、遺構の確認を目的に実施された。あわせて、史跡指定区域外における遺跡範囲の確認も行った。

平成4年4月20日付けで藤井孝行氏より住宅を建て替えたいとして史跡中沢浜貝塚に係る現状変更許可申請がなされた。これを受けて平成4年6月1日付け委保第4の437号で文化庁次長より申請地には地下遺構の存在が予想されることから事前に発掘調査を行うよう通知があった。しかし、発掘調査の経費負担は個人では困難であるとして、平成4年6月24日付けで申請者の藤井氏より陸前高田市教育委員会に対し平成5年度文化財関係補助事業とするよう依頼があった。陸前高田市教育委員会では岩手県教育委員会の指導を受けながら関係事務を取り進め、平成5年度文化財関係補助事業の内定通知を受けて事業に着手した。

現状変更許可申請に伴う屋外発掘調査は平成5年6月11日から同年同月26日まで実施した。発掘調査区域は建築予定の住宅の1階平面に合わせて設定して発掘調査区名をローマ数字により表して「I区」とした。住宅の桁と梁に同じく直交する軸線を定めて調査区域内に5m四方のグリッドを設定した。北西-南東方向の軸線を算用数字で表し、北東-南西方向の軸線はアルファベットの大文字で表すグリッド名とした。

申請地の宅地は昭和56年にも現状変更（盛土）が実施されている。昭和53年の宮城県沖地震による宅地の地盤沈下の復旧のために盛土をしたいとして昭和56年4月24日付けで現状変更許可申請がなされ、同年6月9日付け委保第4の355号で文化庁長官の許可を受けて工事が実施された。その際の盛土が今回の調査区域の南隅で確認されている。

上記の現状変更許可申請に伴う発掘調査とあわせて史跡指定区域外における中沢浜貝塚の遺跡範囲の確認のための発掘調査を実施した。期間は平成5年12月6日から同年同月17日までである。発掘調査区は藤井氏の宅地の南東に隣接する臼井繁治氏の畑に求めて発掘調査区名を「II区」とし、北西-南東方向の軸線と北東-南西方向の軸線をもとにして2m四方のグリッドを2箇所に設定した。グリッド名はアルファベット大文字により表して西側のグリッドを「A区」、東側のグリッドを「B区」とした。

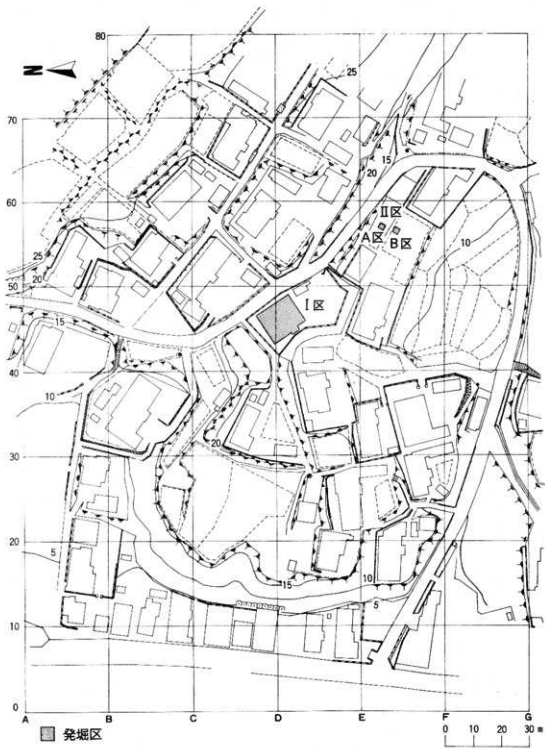
II 遺跡の位置と環境

史跡中沢浜貝塚は岩手県陸前高田市広田町字中沢に所在する。

陸前高田市は岩手県の南東部に位置し、東は大船渡市、北は気仙郡住田町、西は東磐井郡大東町、南は宮城県気仙沼市及び本吉郡唐桑町に接している。市の南東部が太平洋に面しているほかは周囲に原台山（894.7m）、氷上山（874.7m）、などの北上山地の山々が連なる。住田町



第1図 広田半島における貝塚・遺跡の分布及び中沢浜貝塚周辺の遺跡



第2図 大設定図

上有住の高清水山(1013.9m)を源流とする気仙川が市内を南流し、途中東流する矢作川と合流して広田湾に注いで河口付近に三角州性の平野を形成している。市内の平坦地はこの三角州性平野が最大で、ほかには陸けい島である広田半島の付け根そして気仙川と支流により形成された谷底平野や氾濫原さらに広田湾に注ぐ小河川により開折された平坦地などがある。

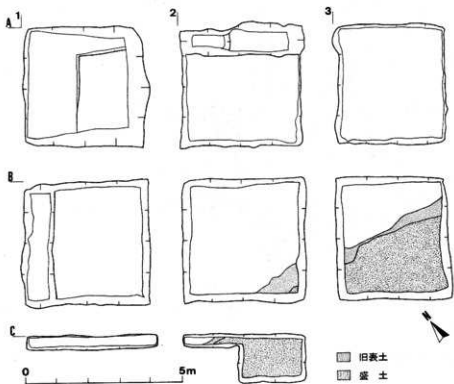
中沢浜貝塚はJR大船渡線小友駅の南約4kmに位置する。南東方向へ突き出た広田半島の先端付近の大森山(標高147.2m)山麓に広がる西側緩斜面上の小丘陵(標高5~20m)に中沢浜貝塚は立地して間近に広田湾を臨む。広田半島には知られているだけでも60箇所の遺跡があって、ほとんどが海岸線近くの緩斜面上に分布し、そのうち貝塚はすでに消滅にしたものを含めると13箇所を数える。中沢浜貝塚のある小丘陵の北側と南辺は沢で開折され、西端の裾はかつては波に洗われる砂浜であった。史跡として指定されている面積は約18,000㎡で、ほとんどが西寄りの風によって海岸から運ばれた大量の海砂で厚く覆われている。

中沢浜貝塚は人骨が多く出土する遺跡として知られ、明治末期から昭和初期にかけても調査が実施された。これまでの調査で貝塚の所属時期は縄文時代早期、前期、中期、後期、晩期さらに弥生時代、平安時代にも及び、縄文時代前期から晩期にかけては連続して貝塚が営まれていたことが分かっている。中沢浜貝塚内の遺構分布状況は貝層が小丘陵の北側部分と南側部分で確認され、史跡の西側に隣接する場所にも貝層の分布が推定される。貝層はイガイ、ムラサキインコなどの岩礫性二枚貝を主体としてクボガイ、チヂミボラ、レイシガイといった岩礫性巻貝が多く混在し砂泥性二枚貝であるアサリも認められる。埋葬人骨はこれまでも多く出土し、成人人骨以外にも新生児骨の入った埋甕(深鉢形土器)が出土している。これらの埋葬人骨は小丘陵の平坦部から南側斜面にかけて密に確認されている。また、人骨のほかにも埋葬された犬の骨も出土している。

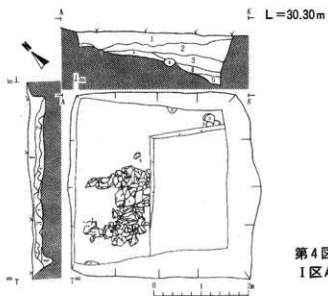
現状変更許可申請のなされた藤井氏の宅地(I区:中沢184、同185)は史跡の中央付近にあって史跡内で最も高い場所の南東側に隣接し、遺跡の範囲確認のための発掘調査を行った白井氏の畑(II区:中沢174-1)は藤井氏の宅地のさらに南東に隣接する。

III 基本層序

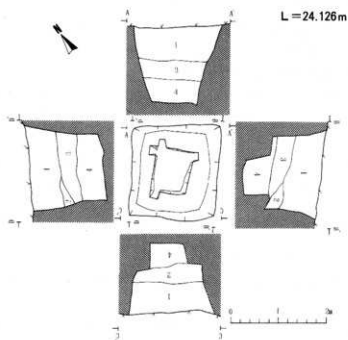
I区



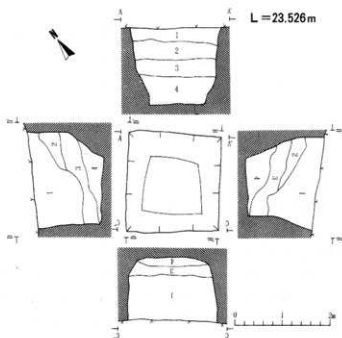
第3図 I区平面図



第4図
I区A1区平面図及び土層セクション図



第5図
II区A区平面図及び土層セクション図



第6図
II区B区平面図及び土層セクション図

第1層(10YR3/2黒褐色):表土(盛土)。

第2層(10YR5/4 におい黄褐色):砂層。焼土、炭化物、遺物なし。粘性なし。

第3層(10YR2/3黒褐色):砂層。木炭粒、遺物若干含む。焼土なし。粘性なし。

第4層(10YR2/2黒褐色):シルト質砂層。木炭粒若干、遺物少量含む。粘性なし。ややしまる。

第5層(10YR2/1黒色):砂質シルト層。木炭粒若干、遺物少量含む。粘性なし。ややしまる。

第6層(10YR7/3 におい黄褐色、10YR4/4褐色等が混ざる):地山。まさ。非常に固い。

地山上面は主に東あるいは南東方向にかけて下る傾斜(10°~20°)をしていて、2~5層の各層も同様の傾斜(10°程度)を示しながら層厚を増す。北隅においては2層下まもなく花崗岩性の岩盤が現れる。南隅においては昭和56年の現状変更(盛土)の際の盛土層が確認された。

Ⅱ区

第1層(10YR3/2~3/3暗褐色):耕作土(盛土)。

第2層(10YR5/4におい黄褐色):砂層。焼土、炭化物、遺物なし。粘性なし。Ⅰ区2層と同じだが、湧水あり。

第3層(7.5YR2/2・10YR2/2~3/2黒褐色):シルト質砂層~砂質シルト層。木炭片・粒、礫、遺物含む。湧水量が増す。

第4層(7.5YR3/1黒褐色~7.5YR2/1黒色):シルト層。木炭片・粒、礫含む。遺物多い。粘性やや強い。しまり強い。湧水量多い。

第5層(2.5GY5/1オリーブ色、10YR4/4褐色等):地山。湧水量非常に多い。

層は南西方向へ下る傾斜(10°~20°)を示して層厚を増す。地表から60cm程で水が滲み出てくる程に地下水面が高く、付近には湧水を利用した池もある。当調査区のある畑のすぐ南西側には水田が隣接している。

Ⅳ 発掘調査の成果

1 Ⅰ区

Ⅰ区は藤井孝行氏からの現状変更(住宅改築)許可申請に伴う発掘調査区である。発掘調査は、住宅の基礎工事による掘削の及ぶ深さ(地表から60cm程度)を目処に行い、確認のために部分的な深掘りを実施した。「Ⅲ 基本層序」で述べたとおり、東あるいは南東方向にかけて下り厚さを増す層序であるため、遺物を含む第3層~第5層が確認されたのは北隅のA0区の一部と深掘りのトレンチを入れたA1区だけであった。他の調査区においては第1層(盛土)と第2層(におい黄褐色の砂層)の範囲内に止まった。

遺物は縄文式土器の破片を主に、石器、貝製品、弥生式土器、土師器、陶器、動物遺存体が

全部でダンボール箱（45cm×30cm×15cm）半個分出土した。詳細は第1表、第3-1表、第3-2表、第5表のとおりである。ほとんどが小片で磨滅しており、所属時期も一貫性を欠くことから、現地性の可能性が低いと考えられる。

遺構は検出されなかった。

2 II区

II区は遺跡の範囲確認を目的とした発掘調査区である。I区同様、にぶい黄褐色の砂層の下に遺物を含む黒褐色あるいは黒色の層が存在する。

遺物もI区と同様で、縄文式土器の破片を主に、石器、貝製品、弥生式土器、土師器、陶器、動物遺存体が全部でダンボール箱（45cm×30cm×15cm）半個分出土した。詳細は第2-1表、第2-2表、第4-1表、第4-2表のとおりで、ほとんどが小片で磨滅しており、所属時期も一貫性を欠くことから、現地性の可能性が低いと考えられる。

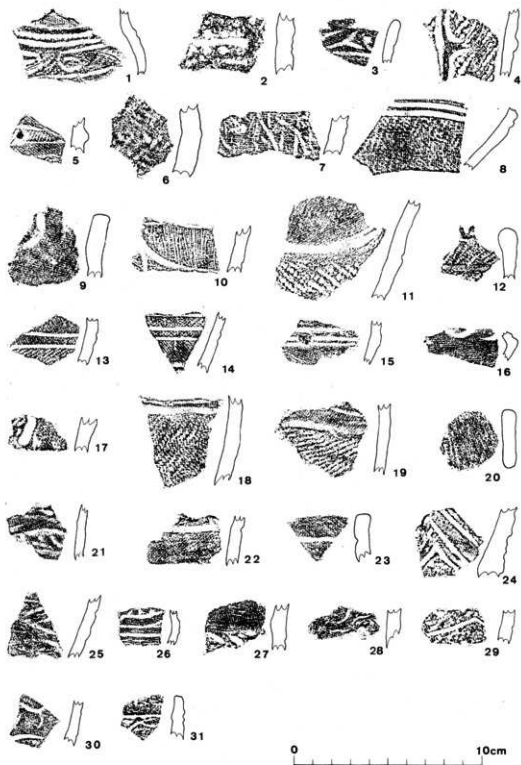
遺構は検出されなかった。

V まとめ

I区及びII区ともに10°～20°の傾斜の層序を示し、にぶい黄褐色砂層の下に遺物を含む黒褐色層あるいは黒色層の存在が確認された。出土遺物の大部分を占める縄文式土器の破片は、ほとんどが小片で磨滅し、出土量も多くはなく、所属時期も一貫性を欠くことから、現地性の可能性が低い。また、I区及びII区ともに遺構は検出されなかった。

主な参考文献

- 佐藤正彦他 「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅰ」（陸前高田市文化財報告第9集 陸前高田市教育委員会 1985年）
- 佐藤正彦他 「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅱ」（陸前高田市文化財報告第10集 陸前高田市教育委員会 1986年）
- 佐藤正彦他 「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅲ」（陸前高田市文化財報告第11集 陸前高田市教育委員会 1987年）
- 蒲生琢磨他 「中沢浜貝塚発掘調査概報Ⅳ」（陸前高田市文化財報告第12集 陸前高田市教育委員会 1988年）



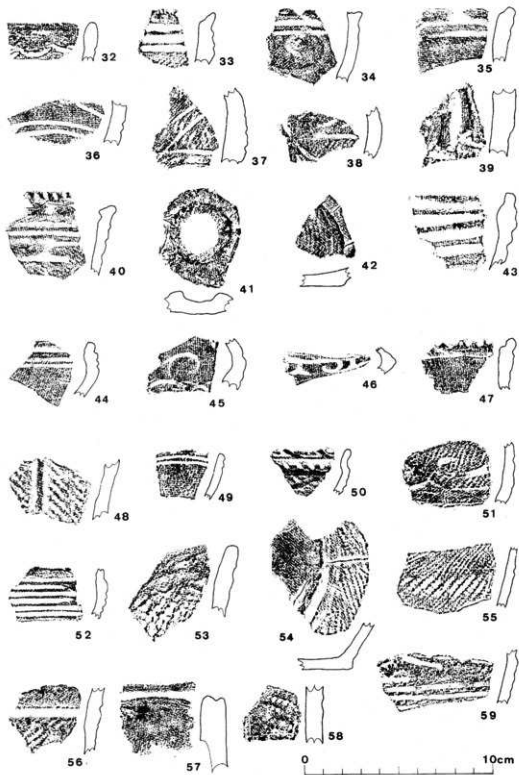
第7图 I区出土遗物(土器片)

第1表 I区出土土器・土製品一覽表

棟 号	出 土 期 位	備 考
第5図1	A1区 第3層	胴部：横位縄文（L.R）、横位区画沈線文、横位斜突列点文、頸部：縄文（磨き）、晩期
" 2	" "	胴部：脊状黏付文、縄文、横位沈線、竹管斜突平行列点文
" 3	" "	口縁部：三叉文、横位沈線、口唇部：B突起、大洞B式期
" 4	" "	部位不明：横位縄文（R.L.R）、黏付区画隆起縄文、区画沈線文、大木8式期
" 5	" "	胴部：横位縄文（R.L）、区画沈線文、磨消縄文、瘤状小突起、晩期
" 6	" "	胴部：結節のある羽状縄文
" 7	" "	胴部：網目状磨糸文
" 8	" "	胴部：横位縄文（L.R）、平行沈線文、内面：磨き、晩期
" 9	A1区 第4層	口縁部：沈線文
" 10	" "	胴部：区画沈線文、縦位集点文（刺毛目）
" 11	" "	胴部：横位縄文（L.R）、区画沈線文、磨消縄文、大木10式期
" 12	" "	口縁部：横位縄文（L.R）、横位区画沈線文、口唇部：小突起の頂点に切れ目、晩期末
" 13	" "	胴部：横位縄文（L.R）、横位平行区画沈線文、磨消縄文
" 14	" "	胴部：横位縄文（L.R）、横位平行区画沈線文、磨消縄文、斜突文
" 15	" "	胴部：3条の平行沈線の中途に粘土粒を付す、大洞A'式期
" 16	" "	胴部：三叉文、晩期
" 17	A2区 第4層	胴部：横位縄文（R.L）、区画沈線文、磨消縄文、中期
" 18	" "	胴部：横位縄文（前々段多葉）、横位平行沈線文
" 19	" "	胴部：横位縄文（L.R）、横位平行沈線文
" 20	" "	土製円盤
" 21	" "	胴部：半面状文、大洞B C式期
" 22	" "	部位不明：沈線文
" 23	" "	土製円盤：沈線文
" 24	" "	胴部：沈線文、後期
" 25	" "	部位不明：人組三叉文
" 26	" "	胴部：横位平行沈線文、半面状文
" 27	" "	口縁部：斜位刺目文
" 28	" "	部位不明：磨糸文、縦線を含む 大木2 b式期
" 29	" "	部位不明：縄文（R.L）、沈線文
第6図30	" "	部位不明：三叉文、大洞B式期
" 31	" "	口縁部：沈線文

第2-1表 II区出土土器・土製品一覽表（その1）

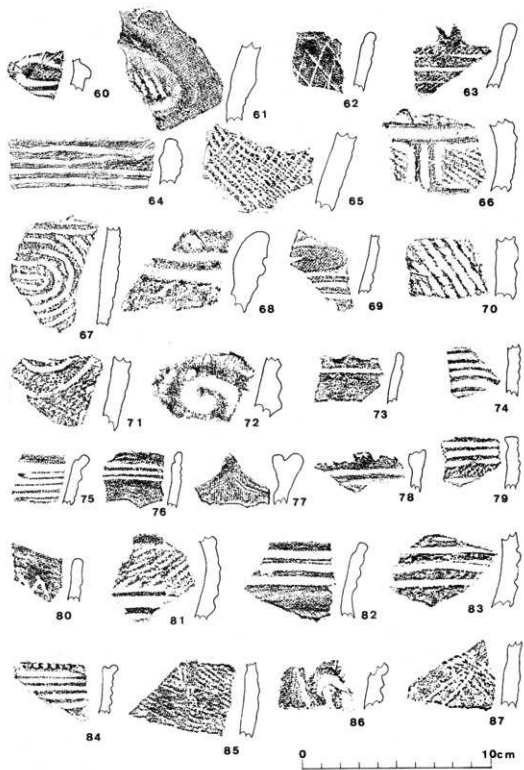
棟 号	出 土 期 位	備 考
第6図32	A区 第3層	口縁部：原文帯、結節のある縄文、内面：肥厚、大木2 a式期
" 33	" "	口縁部：横位縄文（L.R）、横位隆沈線文、口唇部：隆起縄文、大洞C2式期
" 34	A区 第4層	口縁部：雲形文、内面：横位沈線文、口唇部：小突起状の浮彫り、大洞C1式期
" 35	" "	口縁部：横位平行沈線文、内面：沈線文
" 36	" "	胴部：変形十字文、糸布式
" 37	" "	胴部：沈線文、磨糸文、後期
" 38	" "	胴部：区画沈線文、磨消縄文、後期
" 39	" "	部位不明：横位縄文（R.L）、隆起縄文、沈線文、中期
" 40	" "	口縁部：雲形文、口唇部：小突起（外側）、斜位刺目文、大洞C1式期
" 41	" "	部位不明：隆起文、中期
" 42	" "	底部：回転糸切痕、内面着色処理、土研器
" 43	" "	口縁部：横位平行沈線文、黏付隆帯により表面と内面が肥厚、内面：横位沈線文、晩期



第8图 II区出土遗物(土器片·1)

第2-2表 B区出土土器・土製品一覧表(その2)

種 図 番	出 土 層 位	備 考
第6図44	B区第3層	口縁部・胴部：横位平行沈線文、口縁内面：横位沈線文、晩期
" 45	" "	胴部：注口土器?、大割B式期
" 46	" "	胴部：雲形文、横位沈線文、大割B C式期
" 47	" "	口縁部：横位平行沈線文、縦位斜目文、口唇部：横位沈線文、大割C2式期
" 48	" "	胴部：縦位縄文(LR)、縦位貼付隆起線文、大木8式期
" 49	" "	口縁部：横位平行沈線文、口唇部：小突起、大割C1式期
" 50	" "	口縁部：半筒状文、口唇部：小突起、斜位斜目文、大割B C式期
" 51	" "	胴部：雲形文、縦位縄文(RL)、大割C2式期
" 52	" "	口縁部：工字文、口唇部：小突起、沈線文、内面：横位沈線文、晩期
" 53	" "	口縁部：波状口縁?、区画沈線文、横位縄文、大木10式期
" 54	" "	底部：横位縄文(LR)、平行沈線文、晩期
" 55	" "	胴部：異部体による横位縄文(LR)、晩期
" 56	B区第4層	部位不明：区画沈線文、横位縄文(LR)、晩期
" 57	" "	部位不明：沈線
" 58	" "	部位不明：平行沈線文、縄文(LR)、大割C2式期
" 59	" "	部位不明：沈線文、表面に炭化物付着、晩期
第7図60	" "	部位不明：瘤状小突起、縄文、沈線文、晩期後葉
" 61	" "	部位不明：区画隆起線文、縦位縄文(LR)、大木10式期
" 62	" "	口縁部：縹赤文、縹赤含む、前期
" 63	" "	口縁部：平行沈線文、縄文、口唇部：山形小突起の頂点に切れ目が入る、後期末
" 64	" "	口縁部：横位沈線文、内面：横位沈線文、晩期
" 65	" "	部位不明→交差する沈線文、縹赤含む
" 66	" "	胴部：区画貼付隆起線文、横位縄文(RLR)、大木8 a式期
" 67	" "	胴部：同心円状沈線文、横位沈線文、後期中葉
" 68	" "	口縁部：波状口縁?、口縁に平行する沈線文、中期
" 69	" "	胴部：雲形文、平行沈線文、大割C1式期
" 70	" "	部位不明：縹赤文、前期
" 71	" "	胴部：縦位縄文(LR)、沈線文、大木8 b式期
" 72	" "	部位不明：淵状貼付隆起線文、大木8 b式期
" 73	" "	口縁部：小波状口縁、横位沈線文、晩期
" 74	" "	部位不明：同心円状沈線文、晩期
" 75	" "	口縁部：横位平行沈線文、瘤状貼付小突起、内面：横位沈線文、大割C2式期
" 76	" "	口縁部：横位平行沈線文、内面：横位沈線文、晩期
" 77	" "	口縁部：波状口縁、小突起、内面：口縁に沿った沈線文、口唇部：横位沈線文、晩期
" 78	" "	口縁部：波状口縁、横位平行沈線文、口唇部：小突起状の浮彫り、横位沈線文、晩期
" 79	" "	口縁部：波状口縁、横位平行沈線文、横位縄文(LR)、内面：横位沈線文
" 80	" "	口縁部：縹赤状押圧文、大木3あるいは5式期
" 81	" "	胴部：横位平行貼付隆起線文、横位縄文(LR)、大木8 b式期
" 82	" "	口縁部：横位平行沈線文、内面：横位沈線文、晩期
" 83	" "	部位不明：横位平行沈線文、晩期
" 84	" "	口縁部：横位平行沈線文、縦位斜目文、口唇部：横位沈線文、大割C2式期
" 85	" "	部位不明：結節のある縄文
" 86	" "	部位不明：貼付隆起線文+沈線文
" 87	" "	部位不明：沈線文



第9图 II区出土遗物(土器片·2)

第3-1表 Ⅰ区出土石器(石鏃)

標 図 号	出土層位	備 考
第8図1 (有蓋鏃)	A1区 第4層	基部、基部との境が不明瞭 身部：二等辺三角形 側縁：内弧 基部：身部より短い 長さ：19.0mm 幅：13.6mm 厚さ：6.2mm 重さ：0.8g 石質：流紋岩質凝灰岩
" 2 (")	"	基部、基部との境が不明瞭 身部：二等辺三角形 側縁：直線的 基部：身部とほぼ同じ長さ 長さ：22.9mm 幅：12.6mm 厚さ：4.7mm 重さ：1.1g 石質：流紋岩質凝灰岩 欠損する
" 3 (")	"	基部、基部 身部：二等辺三角形 側縁：外弧 基部：身部より短い 長さ：18.8mm 幅：8.6mm 厚さ：3.0mm 重さ：0.4g 石質：チャート
" 4 (")	"	基部のみ 長さ：6.0mm 幅：8.6mm 厚さ：4.3mm 重さ：0.0g 石質：流紋岩質凝灰岩 欠損する
" 6 (無蓋鏃)	"	基部、抜ける 身部：二等辺三角形 側縁：身部中程で最大幅 長さ：21.5mm 幅：11.9mm 厚さ：2.6mm 重さ：0.5g 石質：チャート
" 7 (")	"	基部、抜れが浅い 身部：二等辺三角形 側縁：外弧 長さ：27.0mm 幅：22.0mm 厚さ：9.1mm 重さ：3.95g 石質：チャート

第3-2表 Ⅰ区出土石器(その他)

標 図 号	出土層位	備 考
第8図13	A1区 第4層	二辺に刃部を有する。一辺が片刃で他の一辺が両刃。欠損する。 長さ：24.7mm 幅：15.2mm 厚さ：4.5mm 重さ：1.2g 石質：流紋岩質凝灰岩
" 14 (")	"	一辺に刃部を有する。刃部は片刃。 長さ：30.5mm 幅：33.1mm 厚さ：16.0mm 重さ：20.1g 石質：珪質頁岩
" 15 (")	"	一辺に打撃痕を有し、対になる辺にマイクロフレンジを有する。 長さ：34.7mm 幅：25.0mm 厚さ：9.8mm 重さ：12.4g 石質：頁岩
第9図22	A3区 表土	三辺に打撃痕を有する。 長さ：58.1mm 幅：52.3mm 厚さ：25.3mm 重さ：110.6g 石質：ホルンフェルス(砂岩、頁岩)

第4-1表 Ⅱ区出土石器(石鏃)

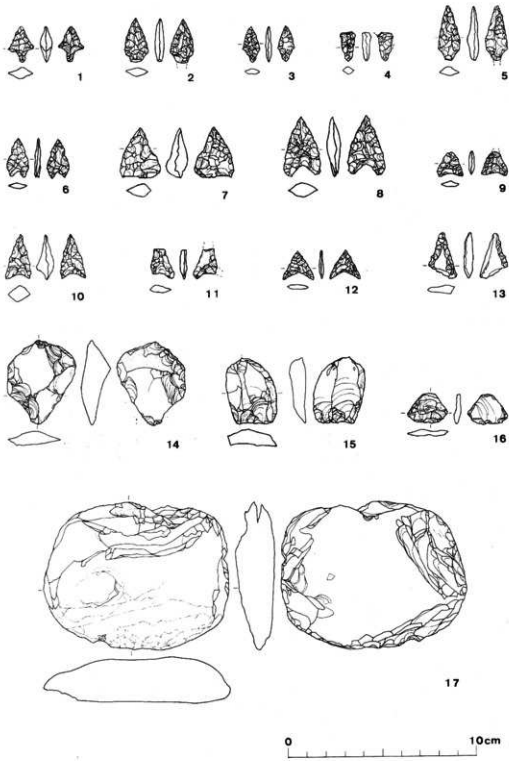
標 図 号	出土層位	備 考
第8図5 (有蓋鏃)	B区 第4層	基部、基部との境が不明瞭 身部：二等辺三角形 側縁：直線的 基部：身部より短い 長さ：29.0mm 幅：11.5mm 厚さ：5.4mm 重さ：1.3g 石質：ホルンフェルス(砂岩) 欠損する
" 8 (無蓋鏃)	第3層	基部、抜ける 身部：二等辺三角形 側縁：外弧 長さ：32.0mm 幅：19.5mm 厚さ：2.4mm 重さ：3.2g 石質：珪質頁岩
" 9 (")	第4層	基部、抜れが浅い 身部：二等辺三角形 側縁：直線的 長さ：12.9mm 幅：14.2mm 厚さ：2.9mm 重さ：0.5g 石質：チャート 欠損する
" 10 (")	"	基部、抜ける 身部：二等辺三角形 側縁：直線的 長さ：23.2mm 幅：13.5mm 厚さ：8.7mm 重さ：1.5g 石質：流紋岩質凝灰岩
" 11 (")	"	基部、抜ける 身部：二等辺三角形 側縁：基部付近で膨らむ 長さ：16.2mm 幅：13.0mm 厚さ：3.0mm 重さ：0.8g 石質：チャート 欠損する
" 12 (")	"	基部、抜れるが深い 身部：正三角形 側縁：直線的 長さ：14.7mm 幅：16.0mm 厚さ：1.9mm 重さ：0.25g 石質：流紋岩質凝灰岩

第4-2表 Ⅱ区出土石器(その他)

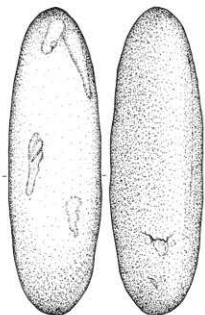
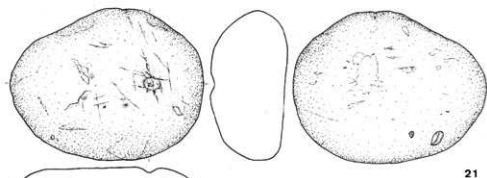
標 図 号	出土層位	備 考
第8図16	A区 第3層	二辺に刃部を有する。二辺とも片刃。 長さ：17.4mm 幅：18.6mm 厚さ：3.5mm 重さ：0.6g 石質：チャート
第9図18	第4層	一辺に刃部を有する。刃部は片刃。 長さ：23.2mm 幅：25.9mm 厚さ：9.4mm 重さ：1.7g 石質：チャート 欠損する
第8図17	"	扁平な鏃の空面に打撃痕を有する。 長さ：97.1mm 幅：77.1mm 厚さ：22.3mm 重さ：229.5g 石質：粘板岩
第9図21	"	両刃：扁平な刃鏃の片面に使用痕を有する。 長さ：101.2mm 幅：80.2mm 厚さ：41.0mm 重さ：519.6g 石質：粗粒砂岩
" 23 (")	"	細長い刃鏃を使用。 長さ：151.8mm 幅：68.5mm 厚さ：46.4mm 重さ：401.6g 石質：中粒砂岩
" 19	B区 第3層	一辺に刃部を有する。刃部は片刃。 長さ：21.1mm 幅：20.0mm 厚さ：6.2mm 重さ：2.8g 石質：チャート
" 20 (")	第4層	同一辺に刃部及びマイクロフレンジを有する。刃部は両刃。 長さ：22.7mm 幅：48.1mm 厚さ：11.0mm 重さ：10.45g 石質：珪質頁岩 欠損する
" 24 (")	"	二辺に刃部を有する。刃部は両刃。 長さ：35.0mm 幅：18.2mm 厚さ：9.0mm 重さ：4.9g 石質：チャート 欠損する

第5表 Ⅰ区出土製品

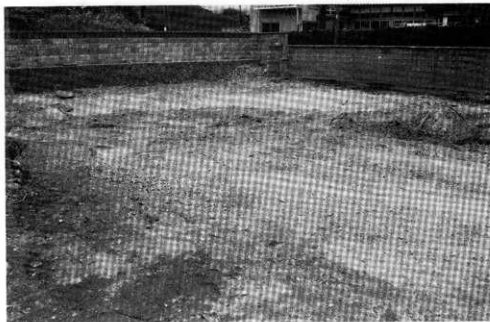
標 図 号	出土層位	備 考
第9図25	A1区 第4層	貝輪：表面が劣化している。 長さ：54.2mm 幅：11.2mm 厚さ：2.2mm 重さ：3.8g ベンチガイ製 欠損する



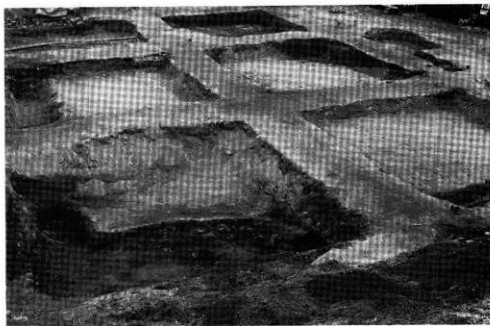
第10図 出土遺物(石器)



第 11 圖 出土遺物（石器及び貝製品）



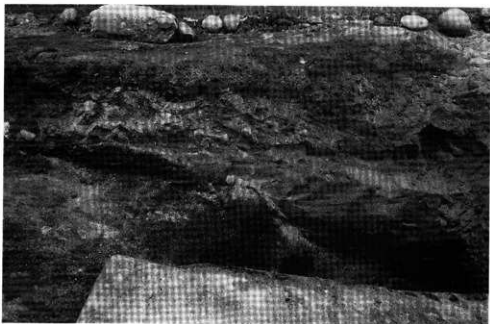
I区調査前（南より）



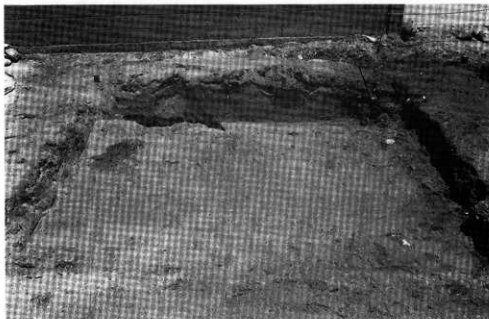
I区（北より）



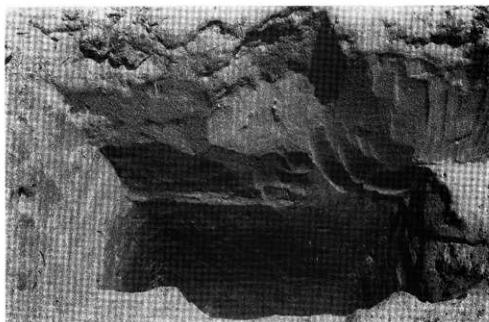
I区A1区(南西より)



I区A1区北東壁断面



I区A2区(南西より)



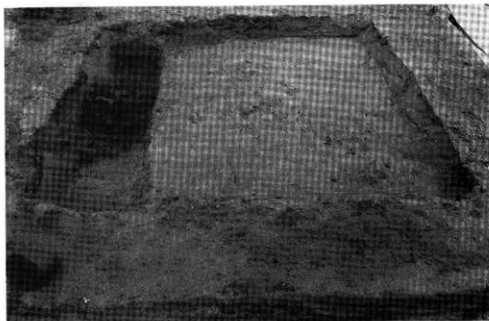
I区A2区北東壁断面(部分)



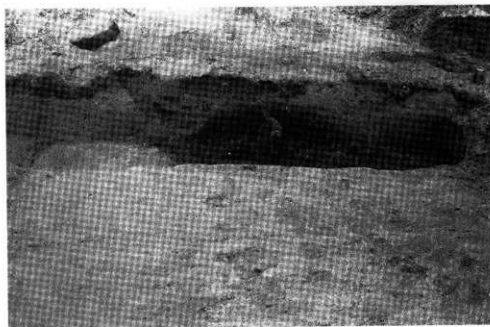
I区A3区(南西より)



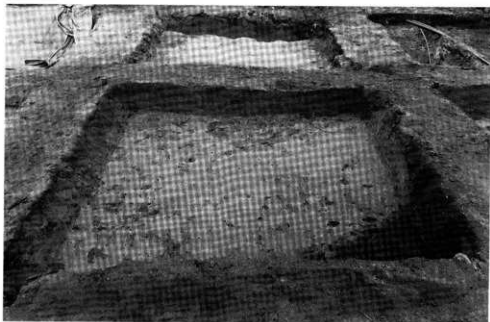
I区調査風景



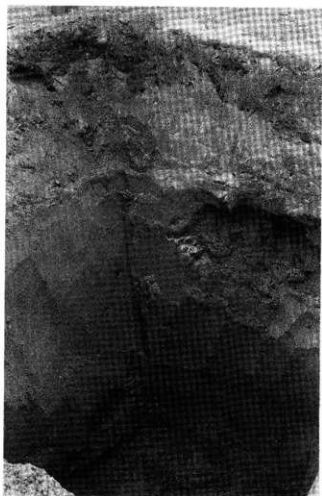
I区B1区(南西より)



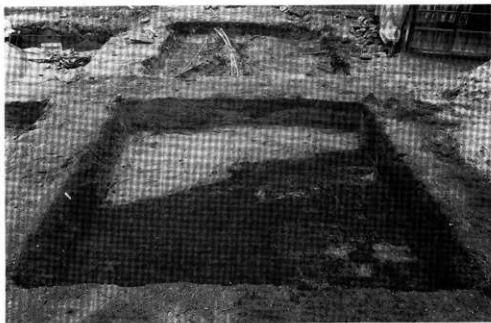
I区B1区北東壁断面



I 区 B 2 区 (南西より)



I 区 B 2 区北隅断面 (部分)



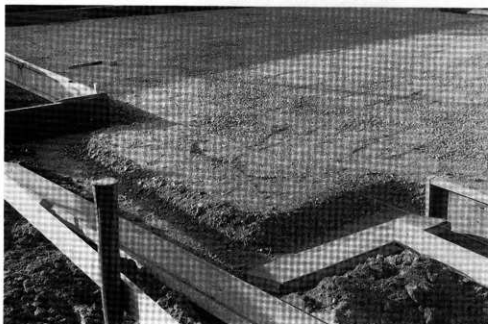
I区B3区(南西より)



I区B3区北隅断面(部分)



I 区埋め戻し作業風景（南東より）



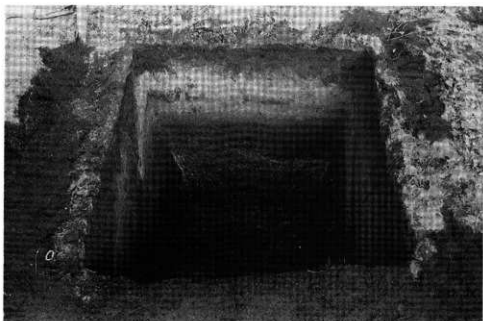
I 区埋め戻し後（南より）



II区調査前（南より）



II区A区調査風景



Ⅱ区A区（南西より）



Ⅱ区調査風景



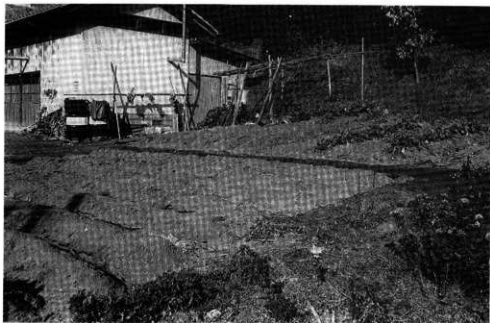
II区B区調査風景



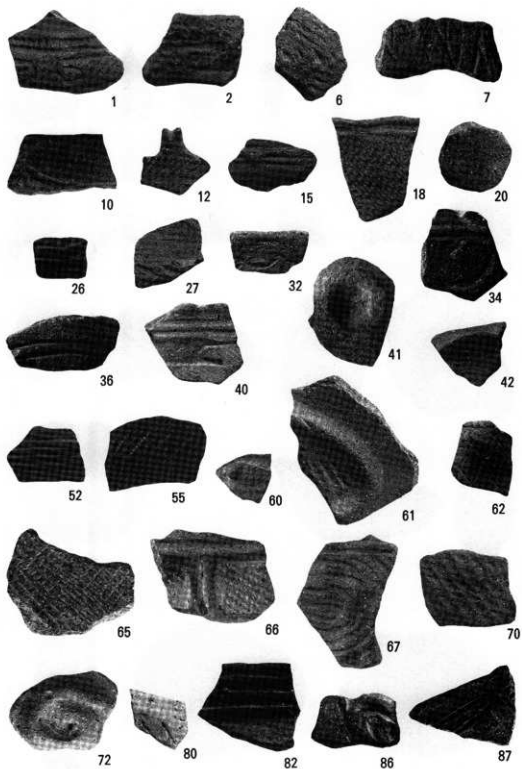
II区B区調査風景



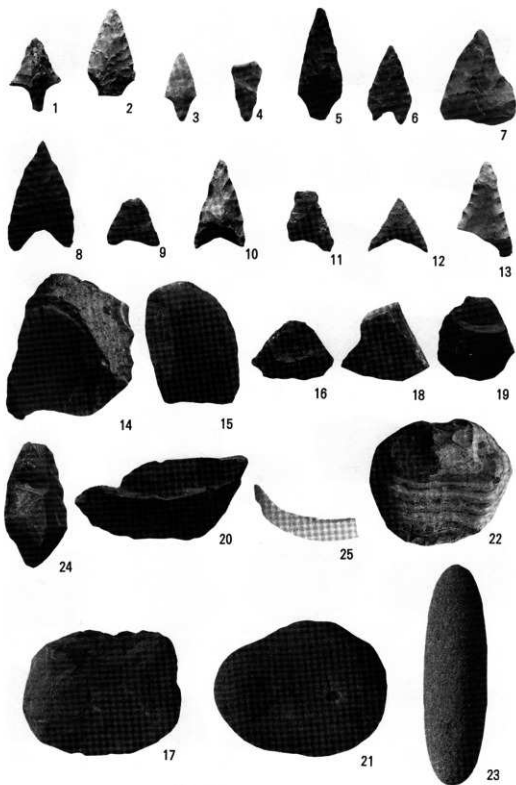
Ⅱ区B区（北東より）



Ⅱ区埋め戻し後（南より）



出土遺物 (土器片・抜粋)



出土遺物（石器及び貝製品）

陸前高田市文化財調査報告書第17号

史跡中沢浜貝塚 '93

発行日 1994(平成6)年3月

編集・発行 陸前高田市教育委員会
岩手県陸前高田市高田町字館の沖110

TEL 0192-54-2111

印刷 仰高田活版
岩手県陸前高田市高田町字馬場前114

TEL 0192-55-2694